

# トヨコ通信

2012年3月号

ホームページ <http://www.sasada-toyoko.jp/>  
e-mail [ssanbal@sasada-toyoko.jp](mailto:ssanbal@sasada-toyoko.jp)

発行 : 日本共産党笹田トヨコ後援会  
発行日 : 2012年 3月 1日 第118号  
連絡先 : 大垣市室本町 5-8  
日本共産党大垣市後援会  
Tel 78-6865 Fax 73-8572

部内資料



## 3月議会はじまる



平成24年度3月議会が3月5日から22日まで開催されます。今議会には、平成24年度予算案など80議案が上程され、また「消費税の増税に反対する請願」（消費税廃止西濃連絡会）などが出ています。

### 歳入 市税11億4000万円の減

一般会計の歳入の特徴は、個人市民税では給与所得の減少で減収が見込まれるが年少扶養控除の廃止による増税で1億6千万円の増、法人市民税では5億9700万円の減、固定資産税では6億8500万円の減で、市税収入全体では前年度比11億4000万円の減。そのため地方交付税が9億9000万円（33%）、財政調整基金など繰入金8億7767万円（62.1%増）の増額で対応。

### 歳出 公債費増加に転じ厳しい予算編成

ここ数年、市の借金の返済は借換債措置などで公債費負担を減らしてきましたが、24年度予算は「公債費が増加に転じ、厳しい環境下での予算編成となった」ということです。この「厳しい環境下」の予算編成において、「子育て支援」や「環境」などで評価できる内容もありますが、“ムダ使い”にあたるのではと思われる予算も計上されています。

ムダ使い

### むすびの地記念館+芭蕉元禄

#### +中心市街地活性化で2億5千万円

例年「芭蕉元禄」や「元気ハツラツ市」等で中心市街地活性化に約1億円の予算が計上されており、24年度は

新たに「奥の細道むすびの地記念館関連事業」として1億5000万円ほどの予算が追加されています。その内容は2つのPR事業に約5000万円、イベント事業6200万円、展示のため映像制作3000万円などで、この中には今まで既に行われている活性化事業と重なる内容もいくつか含まれています。

ムダ使い

### 「横曽根工業団地」関連で約7億円

横曽根工業団地整備で市に帰属する公共施設の買戻しに4億7720万円、工業団地周辺の道路整備工事などで8930万円、工場等設置奨励金で1億3273万円が計上されています。横曽根工業団地の用地価格については高すぎると議会で問題になりましたが、土地開発公社はその高い価格のまま買戻し、今回公社から市が買戻す予算が計上されています。

### 300人規模の北幼保園建設費 7億3370万円

北保育園・かさぎ保育園・北幼稚園を統合し300人の大規模園となる北幼保園の建設費が予算計上。平成24年から25年度の事業で26年4月開園予定（裏面参照）。

### 地震対策事業3億7354万円、治水事業11億5950万円

<地震>木造住宅等耐震対策支援、小・中学校耐震補強計画、公立保育所耐震補強可能性調査、大垣城ホール耐震補強可能性調査、公共下水道管きよ・終末処理場地震対策緊急整備事業

<治水>浸水対策事業4億7750万円：排水基本計画に

### 新エネルギー関連1億3000万円

新エネルギー関係の新規事業として「地下水利用調査研究事業」、「太陽光発電設備設置事業補助金」、「小水力発電設備整備事業」、「バイオガス発電設備整備事業」、「燃料電池設置事業」、「LED照明器具導入事業補助」や、交通安全灯、商店街路灯・公園内灯をLEDに切り替えるため、予算化されています。

### 子どもの医療費助成：高校生相当まで無料化

新規に高校生相当（入院通院）9400万円を合わせて子ども医療費支給事業：9億590万円

新規マタニティ歯科健診事業220万円、妊婦に対し市内指定医療機関受診券1回分交付

新規病児保育事業965万円：生後2か月児～小学3年生まで、定員4人。

### 3月議会の日程



3月5日(月)	10:00	本会議・提案説明
3月12日(月)	10:00	本会議・一般質問
3月14日(水)	9:00	子育て支援日本一対策委員会
	13:00	市民病院に関する委員会
3月15日(木)	9:00	建設環境委員会
3月16日(金)	9:00	経済産業委員会
3月19日(月)	9:00	文教厚生委員会
3月21日(火)	9:00	企画総務委員会
3月22日(水)	10:00	本会議

# 党派を超えて大規模保育園を視察

2月14日、「300人規模の幼保園ではどのような保育が展開されるのか」といった問題意識をもって、モデルになった静岡県掛川市にある掛川中央幼保園を市議会議員有志で視察してきました。参加したのは笹田の他、岡田議員、粥川議員、長谷川議員の4人です。

## 320人規模の掛川中央幼保園視察

掛川中央幼保園の運営は、幼稚園部を学校法人くるみ学園（昭和37年設立）が、また保育園部を社会福祉法人くるみ学園福祉会（平成20年設立）が担っています。両法人の理事長である小澤直明氏から施設の案内およびお話を伺いました。幼保園は3年前、掛川市の幼保園化に基づき、公設民営で引き受けたとのこと。定員は幼稚園部180人、保育園部140人の合計320人。職員は2人の園長を含めて42人です。

幼保園の理念は、「つなぐ」ということで園児のために父母と先生が手をつなぐ等を意味し、また「本物」を子どもたちに提供したいと、園の創設者が音楽家であったので、教室にはピアノが置かれ、度々生演奏のコンサートが開かれるということでした。訪問した日は、雨が降り寒い日で、子ども達は各部屋で制作など机上の課題に取り組んでいました。全体として“静か”というのが印象で、「つなぐ」の中には小学校へつなぐ意味もあり、「小1プロブレム」が起きないように、5歳児クラスはそれなりの取り組みを行っているとのこと。300人規模の大規模園の園運営について、いろいろお聞きしました。以下がその内容です。

### 発表会、ホールに全員入らない

発表会の参観は400人の父母等だけでいっぱいとなり、子ども達は舞台に出て発表するのみ。一緒に見ることはできません。リハーサルの時に子どもたちとおじいちゃん

おばあちゃんが参加して発表を見ることができます。卒園式は卒園する5歳児クラスの子ども達と父母等のみです。4歳以下の子ども達は参加しません。ホールは全員が参加できるスペースではないとのこと。運動会は園庭で行うが、観客は2階のベランダから見ます。ネックになっているのは駐車場で、ほとんどが車による送迎で、発表会当日は180台の車の対応に困ったとのこと。

### 300人規模の園運営の鍵は職員の質 …障がい児保育はお断りしている

300人規模の運営は幼稚園でやっているのだから、可能だと思っている、そのためには職員教育が鍵となるが、幼保園の場合は長時間保育の子どもたちがいるので、職員全員で研修や会議ができず、職員のやりくりが大変。障がい児保育はとてできないのでお断りしているとのこと。

### 給食は外注で

ドライ方式の厨房で調理した作りたての温かい食事を提供、集団的教育の一つとして「食育」に力を入れている。ただ、経費の関係で調理業務は外部業者に委託しているとのことでした。

昨年、180人規模の南魚沼市の浦佐認定こども園を視察、そして今回320人の掛川中央幼保園を視察して、大垣市の北幼保園の300人定員で、果たして期待される水準の保育ができるのか大変疑問に感じています。

## 大規模北幼保園の問題点は

### 発表会などイベントは全員参加が難しい

昨年、大規模園の問題について質問した時、「保育室や教室の配置の工夫で対応する」という答弁でしたが、施設的に限界があります。発表会など全園児が一同に集まる場合、園児数の2~3倍の人が入ることができるホールが必要ですが、600人から900人入るスペースは実際には難しいのではないのでしょうか。

### 大規模園は障害児保育に適さない

障がい児保育について、掛川中央幼保園では「受け入れは困難」ということでした。北幼保園は障がい児保育の指定園になりますが、大規模園での障がい児保育はどうなるのでしょうか。自閉症児の発達に詳しい専門家の話では、「自閉症の場合、感覚が過敏で、音や人の動きの激しさ等でパニックになることも多い」ということです。人数が多いとそれだけ刺激が増えるので、自閉症児にとって大きな集団は恐怖となるのではないのでしょうか。

### 地域に交通問題が起きるのでは

今の時代、殆どの子ども達は車による登園で、交通渋滞が心配です。掛川の幼保園では、幼稚園児は通園バスを利用して、車の送迎は保育園児140人だけです。しかし、発表会などの時は駐車場を確保することが大変ということでした。北幼保園では通園時の渋滞や行事の時の駐車場確保など大きな課題となります。また園周辺は家屋が密集しており、狭い道路や一方通行の道路などで、大勢で外に散歩に出られる環境ではなさそうです。

### ↓掛川中央保育園の外観

